

令和4年度(2022年度)北海道防災総合訓練

○ 目的

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に係る津波浸水想定・被害想定を踏まえ、北海道地域防災計画に基づき、北海道、防災関係機関、関係市町村が共同で大規模な地震津波災害を想定した訓練を実施して、同計画内の各種災害応急対策計画の実効性を検証することで、北海道の災害対応力の強化を図る。

○ 訓練日程・主要会場

- 1 第1期 令和4年8月6日(土) 2振興局管内6市町 主要会場 函館市・七飯町
- 2 第2期 令和4年8月27日(土) 4振興局管内19市町 主要会場 白老町・伊達市

○ 主催等

- 主催 北海道防災会議
- 共催 各参加市町村

○ 訓練内容

- 1 訓練想定 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴い、太平洋沿岸地域に巨大津波が発生
- 2 訓練実施項目

- 情報伝達訓練 ○防災情報システムによる情報伝達・共有 ○防災アプリを活用した情報の伝達
○コミュニティ放送による避難所情報の発信
- 情報収集訓練 ○ヘリコプター、ドローンによる情報収集・映像伝送
○各種システムの活用した関係機関との情報共有
- 住民避難訓練 ○令和3年7月公表の津波浸水想定を踏まえた避難訓練
- 避難所運営訓練 ○感染症対策を講じた避難所運営訓練○段ボールベッド等組立体験訓練
○防災講話
①「北海道の特性を踏まえた津波からの避難と健康を保つ避難生活」
講師 日本赤十字看護大学 根本教授
②「"まさかは必ずやってくる"広域避難の仕組みについて」
講師 渡島総合振興局地域政策課 國田主幹
③「災害に備え町職員として何をすべきか」
講師 上川総合振興局地域政策課 石川危機対策推進幹
○関係機関による車両・防災資機材等の展示
- 広域避難訓練 ○津波浸水被害地域から内陸地域の他市への広域避難(広域一時滞在)
○関係機関との連携(移動手段・経路・誘導・受入先の調整等)
- 物資輸送訓練 ○国からのプッシュ型支援物資を想定した輸送訓練
○トラック協会、協定締結企業による物資輸送 ○物資輸送調達支援システムの活用
○ドローンを活用した緊急物資搬送
- 医療救護訓練 ○傷病者の広域搬送・現地医療救護活動を想定した訓練
札幌医科大学DMAT・エクモカーの活用、救急隊との連携
- 架橋訓練 ○陸上自衛隊による白老川への架橋

※以下、新型コロナウイルス感染症・天候不良により中止又は一部中止した訓練

- 救出救助訓練 ○津波避難タワー等緊急一時避難場所からのヘリコプターによる人命救助
○現地調整本部の設置による、消防・警察・海上保安庁・陸上自衛隊・DMATの連携
- 医療救護訓練 ○函館空港SCU(広域搬送拠点臨時医療施設)における救護活動
- 物資輸送訓練 ○陸上自衛隊による航空輸送
○海上保安庁・海上自衛隊による海上輸送

令和4年度(2022年度)北海道防災総合訓練の主な様子(主要会場)

小樽港:物資輸送訓練

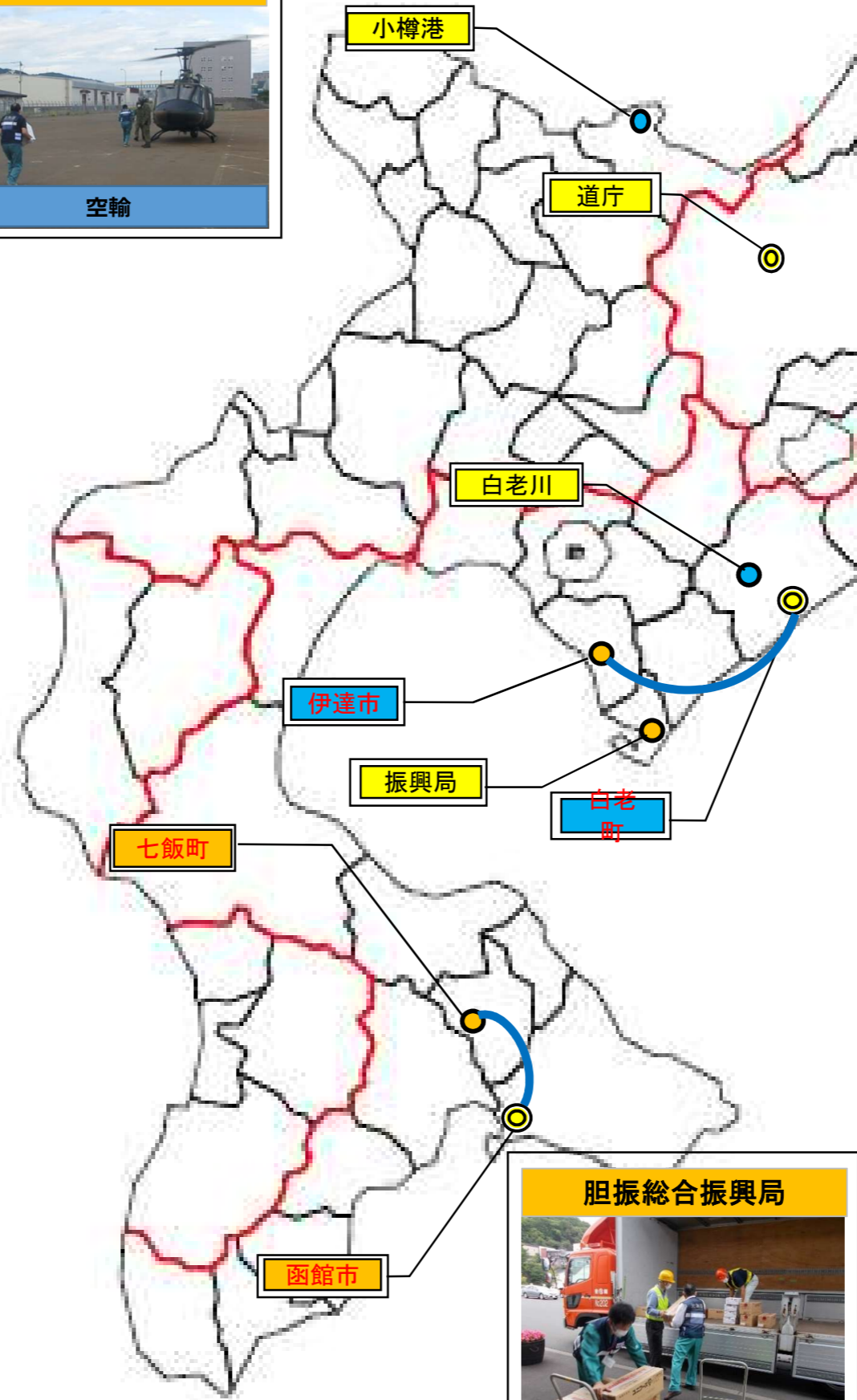
海上輸送 積載 空輸

七飯町:大中山コモン

広域避難受入 備蓄資材展示
 防災講話 支援物資配布

函館市:駒場小学校

避難者受付 段ボールベッド組立
 電源車(関係機関展示) ドローン空撮



北海道庁:危機管理センター

ドローン映像伝送 情報伝達・共有

白老川:架橋訓練

緊急輸送路の確保

白老町:竹浦地区

段ボールベッド組立 防災講話
 ドローン空撮(高台避難) 広域避難(道央自動車道)

胆振総合振興局

支援物資積載

伊達市:総合体育館

医療救護 防災講話

○ **参加機関等** 約 70 団体(うち市町村 27団体) 約 1,500名

【北海道】

総務部危機対策局、環境生活部ゼロカーボン推進局

渡島総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局、十勝総合振興局、釧路総合振興局、根室振興局
檜山振興局、後志総合振興局

【訓練参加市町村】

函館市、七飯町、森町、別海町、北斗市、根室市、江差町(江差港)、小樽市(小樽港)

伊達市、白老町、室蘭市、豊浦町、洞爺湖町、苫小牧市、登別市、壮瞥町、厚真町、むかわ町、豊頃町
釧路町、釧路市、厚岸町、浜中町、白糠町、標茶町、弟子屈町、鶴居村

【公的機関】

北海道警察、陸上自衛隊北部方面隊、海上自衛隊大湊地方隊、北海道開発局、第一管区海上保安本部、
北海道産業保安監督部、北海道総合通信局、国土地理院北海道地方測量部、東京航空局各空港事務所、
札幌管区气象台、函館市消防本部、西胆振行政事務組合消防本部、苫小牧市消防本部

【民間機関等】

(株)NTT東日本、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)、北海道電力(株)、北海道電力ネットワーク(株)、
東日本高速道路(株)北海道支社、北海道トラック協会(各地区)、北海道エアポート(株)、北海道バス協会、
白老観光バス(株)、日本産業医療ガス協会、北海道看護協会、市立函館病院、函館五稜郭病院、伊達赤十字病院、
ヤフー(株)、ドローン協会(株)ドリームベース・ヘリカム(株)・(株)ACSL)、日本ムービングハウス協会(株)アーキビジョン)、
北海道コココーラボトリング(株)、函館山ロープウェイ(株)、FMいるか、(株)クワザワ

※上記については、主要会場において協力いただいた機関を掲載

○参加者の声(主要会場におけるアンケート集計結果)

■訓練に参加して最も印象に残ったこと

- 1: 防災講話
- 2: 段ボールベッド等の組立
- 3: 避難訓練(広域避難)

■今後訓練に取り入れて欲しい事項

- 1: 災害用トイレの使用方法
- 2: 住民による実動訓練
- 3: 炊き出し(感染症対策のため中止)

■その他自由意見が多かったもの

- 1: 冬の防災訓練の必要性
- 2: 宿泊訓練
- 3: 実動訓練(体験・展示見学が多い)

アンケート分析結果

○専門家によるわかりやすい内容での防災講話や、避難所で実際に使用する資機材の体験型訓練が好評であった。

○災害用トイレの使用方法に関する訓練のほか、住民自ら避難所を運営する訓練への参加希望が多く見られた。

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による冬期の被害想定が大きいこともあり、厳冬期訓練への関心が高い。